

大学生の友人関係の形成・維持についての検討

—新型コロナウイルス感染症が大学生に及ぼした影響—

20008FRM 伊藤 ななみ

キーワード：大学生・友人関係・遠隔授業

I. 問題と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、直接会って関係を形成したり、関係を発展させたりすることが困難であった 2020 年度の入学生は、これまでとは異なる友人関係形成の過程を辿ったと考えられる。遠隔授業が行われ、同級生と直接会うことができなかった時期には、SNS 上でコミュニケーションがとられていたのではないだろうか。また、友人関係の形成段階において、SNS 上でのコミュニケーションをきっかけに親睦を深めたという学生が、例年と比較すると 2020 年度入学の学生において、多いと考えられる。そのため、調査は、2 年生と 3 年生から得られたデータを比較して研究を行う。

II. 方法

A 大学に在籍する 2020 年度入学の大学 2 年生 12 名（男性 3 名、女性 9 名）と、2019 年度入学の大学 3 年生 5 名（男性 1 名、女性 4 名）の計 17 名を対象とした。質問内容は、入学後の友人関係形成についての過程や、遠隔授業期間中の友人との交流状況、SNS での友人関係形成の経験の有無、高校生時代にイメージしていた大学生活と実際の大学生活について等であった。

逐語化した面接内容について、KJ 法によってカテゴリー化を行った。

調査協力者が語った内容から、新型コロナウイルス感染症拡大下における大学生の学生生活に関わる発言に小タイトルをつけた。その後、内容の類似したものを KJ 法によってまとめた。

III. 結果

大タイトルは、大学 2 年生で、『友人関係の形成』、『友人関係の形成困難』、『友人関係の維持』、『友人関係の疎遠』、『遠隔授業の困難』、『遠隔授業の利点』、『対面授業の困難』、『対面授業の利点』、『期待とのギャップ』、『サークル活動の困難』、『サークル活動の楽しみ』、『コロナ禍の大学生生活』の 12 タイトルが得られた。3 年生では大タイトルとして、『友人関係の形成』、『友人関係の維持』、『友人関係の疎遠』、『遠隔授業の困難』、『遠隔授業の利点』、『期待とのギャップ』、『コロナ禍の大学生生活』の 7 タイトルが得られた。

IV. 考察

本研究では、入学前に SNS を利用して友人関係を形成していたのは大学 3 年生で 60%、大学 2 年生で 16.7%であり、入学前には大学 3 年生の方が多く SNS を利用して友人関係を

形成していたという結果になった。入学後に1度対面したのちにSNSやメッセージアプリを利用した人数も合わせると、大学2年生では58.3%となるが、わずかに大学3年生が多い結果となった。また、SNSやメッセージアプリ上で友人関係を形成し、維持・発展させていたのは大学3年生で40%、大学2年生で25%となり、大学3年生の方がSNSやメッセージアプリを利用して友人関係の維持・発展をさせていたことが分かった。

2年生特有の大タイトルとなった『友人関係形成の困難』においては、「友人関係形成のきっかけイベントの中止」や「オンラインでは人柄がわかりにくい」などの小タイトルが得られた。大学3年生は、新入生研修合宿や入学式が行われたため、『友人関係形成』において固有の「合宿で友人ができた」が得られている。友人関係の形成のために環境が用意されずに半年間の遠隔授業期間を過ごすこととなったために、友人関係の形成が困難であったことが考えられる。

『対面授業の困難』においては、「通学の負担」や「座席指定のため話し合いが行いにくい」など、『対面授業の利点』では、「大学生実感」や「わからないことをすぐ質問できる」などの小タイトルが得られた。これらが大学2年生特有のものとなったのは、3年生は2019年度の新型コロナウイルス感染症拡大前の1年間を大学で過ごし、対面授業での大学生活に慣れていたため、2020年度後期からの対面

授業時期には対面授業についての困難や利点を再確認することがなかったと考えられる。

大学3年生では、対面授業が再開したことによる「大学で友人に会える喜び」があったり、元々友人関係が形成されていたために「友人グループの個別化」といった遠隔授業期間をはさんだことや、対面授業で座席が指定になったために疎遠になってしまった寂しさがあったと考えられる。複数人での行動をしていた学生らが【1人行動が増えたり、人と関わるストレスが減ったりした】と語ったが、遠隔授業期間に誰とも会えない状況になったことで、自分と向き合う時間ができ、自分らしさを取り戻したのだと考えられる。

また、友人関係の進展について面接の中で、時系列に沿って、友人関係の実態や、感情などを聞いたところ、大人数でのかかわりを求める学生と、対人関係を広げることなく、穏やかに過ごしたいと考える学生がいることが分かった。大人数でのかかわりを求める学生は、SNSを活用して、友人関係の形成を図ったり、サークルの説明会などの情報にも敏感に反応していた。一方で、穏やかな対人関係を望む学生は、特定の同級生との行動をせずに過ごしていることが語られた。新型コロナウイルス感染症拡大下で、友人関係の疎遠を物足りなく感じる学生がいる一方で、友人と会わずに済むことで快適な大学生活となっている学生がいることが示唆された